

## 小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 博愛福祉会	代表者	大西 弘文	法人・ 事業所 の特徴	介護度や医療依存度が高くても自宅で生活したいと思っている人 や家族の思いを理解し寄り添い小規模らしい介護を行っていく
事業所名	ゆとり庵北越谷 小規模多機能居宅介護	管理者	青田 詩織		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	人	人	人	2人	1人	人	1人	人	4人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の 確認	利用が増え職員間での情報共有が難しいこともある。その都度工夫し情報共有を行い、全職員が同じ方向で介助ができるようにしていく。	利用が決まったらフェースシートを作成し、最低限の情報は職員に伝えている。事前に話し合いの場を持ち参加できる職員で情報を共有する。毎日短いミーティング時間を作り、課題などを話し合う場を作っている。	新規利用者の情報把握はとても大切。今後もきちんと把握できるような体制を作っていけると良いと思います。	現在の利用者本人だけではなく、介護が必要になる前の生活歴、家族背景なども、徐々に把握し、地域密着事業ならではの関わりができるようにしていく。
B. 事業所の しつらえ・環境	開設間もなくで清潔が維持されている。今後も設備の清潔を心がけるとともに、入りやすい環境を整え、地域の方に開けた事業所となるようにしていく。	地域の小学校の子供110番の家として登録。実際利用に至ったことはないが地域に開けた事業所を目指していく。コロナが落ち着けば、地域の人が気軽に来れるような事業所にする。	特になし	小多機内部では破損箇所、汚れなどが目立つこともある。その都度対処していく。
C. 事業所と地域の かかわり	コロナの影響で思うようにかかわりが持てなかった。今後は事業での行事に地域の方を招いたり地域の行事に参加させてもらうなどのかかわりを持って行く	昨年同様コロナ禍の為地域とのかかわりは持つ事ができなかった。	特になし	コロナが落ち着いて地域活動ができるようになったら何ができるのかを計画する。
D. 地域に出向いて 本人の暮らしを 支える取組み	なじみのお店への買い物、お花見などの季節の行事、お墓参りなど個別の対応を実行していく。	地域のスーパーやお墓参り、お花見、散歩などコロナかでも可能な範囲で地域に出向く活動は行った。本来は1人1人のなじみのスーパーや公園などに出向いて行けると良いと考えている。	お墓参りができるのは素敵な活動だと思います。今後も利用者一人一人に合わせた活動を取り入れていってください。	利用者一人一人の生活歴や地域での役割などを把握し小多機の活動に生かす。
E. 運営推進会議を 活かした取組み	コロナの影響で対面での運営推進会議は1度しか行えなかったが、有意義な意見を頂くことができた。来年は対面で難しくてもZOOMなどを利用し直接話ができる運営推進会議を行う。	運営推進会議の運営状況報告書に、実際利用している方の通い、泊り、訪問の利用形態を掲載し説明することで、小多機の利用方法を具体的に理解してもらう機会を作ることができた。運営推進会議の開催時には必ず掲載している。		
F. 事業所の 防災・災害対策	事業所では年2回の防災訓練を実施している。コロナの影響で地域の方への参加、地域の訓練に参加などは難しかった。今後はそのような活動も行っていく。			地域の方たちと一緒に防災や災害対策に取り組み機会を持つ